

私たち仏教徒はウクライナにおける戦争行為の即時停止、 軍隊の撤収と話し合いによる解決を求めます

今年2月24日、ロシア軍はウクライナ領への侵略を開始し、戦闘行為を始めました。プーチン大統領はウクライナ侵攻の理由を「ウクライナ国内で威圧され民族虐殺に遭っている人たちを守るためだ」とし、「ウクライナの非軍事化と非ナチス化の実現を目指す」と語りました。しかし、プーチン大統領がいかに「国益」「自衛」「正義」「正当性」を訴えようとも「15日時点で300万人が国外に避難し多くはこども」「民間人の死傷者は8日時点で1335人、死者は少なくとも474人」（UNCHR発表）との現実を前にしては、無意味で空虚な言葉にしか聞こえません。

人類はこれまで、2度の世界大戦を含め数々の戦争を繰り返してきました。そして今回のウクライナへの侵攻は、かつてアメリカが大量破壊兵器を理由に一方的に引き起こしたイラク戦争や、日本が中国で引き起こした満州事変と同質のものです。しかし大きな軍事力で威圧したり、敵対するものを滅ぼすことによって、本当に世界の安全はまもられてきたのでしょうか。

釈尊は「怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みのやむことがない」（ダンマパダ）と説きます。「敵対するもの」を生み出すのは、自国中心の国家エゴです。国家であっても私たちの自我と同じように、自国の都合によって敵と味方を同時に作り出すのです。だから、自国中心の国家エゴというものから解放されることなしに、他国との本当の信頼関係は築けないのです。

今、この時間もいのちを奪い奪われる兵士、そしてその戦闘に巻き込まれる一般市民がいます。そこに「正義」は全くありません。

私たち仏教徒はロシア政府に対して、一刻も早いウクライナにおける軍事行為の即時停止と軍隊の撤収、そして話し合いによる解決を求めます。

2022年3月15日

富山県仏教者九条の会

全日本仏教会加盟団体の HP、仏教系大学の HP より声明文を集めましたのでご一読ください

全日本仏教会

ウクライナ情勢に関する理事長談話

2022年2月24日、ロシア軍がウクライナに侵攻しました。

国際社会の願いも叶わず、問題を解決する手段として武力を用いた暴力を行使し、ヨーロッパにおいて戦争が始まりましたことは、誠に残念でなりません。

わたくしたち人類は、過去の悲惨な経験を通して、「戦争は問題の解決にはならず、悲しみ、苦しみ、怒り、憎しみを生み、誰ひとりとして幸せにしない」ことを学んできたにもかかわらず、世界を巻き込む戦争が起きたことに、深い悲しみと憂慮の念に胸が締めつけられる思いです。

仏陀は「すべての者は暴力におびえる。すべての（生きもの）にとって生命は愛しい。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ」（中村元訳『ブッダの真理のことば・感興のことば』「ダンマパダ」130）と述べられています。

全日本仏教会はこの戦争により、苦しみ、不安、悲しみにある人々に思いをはせ、一日も早く戦争が終わり、ウクライナの人々が平和な日常生活を取り戻し、更なる暴力の連鎖が起きないこと、そして世界平和が実現されることを心より祈念いたします。

令和4年2月28日
公益財団法人 全日本仏教会理事長
戸松義晴

浄土真宗本願寺派

ロシア連邦によるウクライナ侵攻に対する声明

2022年2月24日、ロシア連邦がウクライナへの軍事侵攻に踏み切りました。

ウクライナの各都市では子どもを含めた多くの民間人が犠牲となり、加えて100万人を超える国民が難民として避難を余儀なくされていると報道されています。

私たち浄土真宗本願寺派は、いかなる理由があろうとも、人命を軽視し、武力で一方向的に現状を変更しようとする暴力的な行為に抗議し強く反対の意を表します。

このたびのウクライナへの侵攻だけでなく、世界各地でテロや武力紛争が続いている現実があります。あらためて、あらゆる場での暴力の行使を非難するとともに、一刻も早く対話による平和的な解決がなされ、ウクライナに再び平和が訪れますよう願うものです。

思想文化や制度による厳しい対立や相互の排除をのり越えて、自他共に心豊かに生きていけるよう、共に努力する先にこそ、恒久的な平和を実現する道が切り拓かれてくるものと確信いたします。

2022(令和4)年3月8日

浄土真宗本願寺派総長 石上 智康

ロシア軍のウクライナ侵攻を非難し、戦争の早期終結を願う決議

二〇二二年二月二四日、ロシア軍はウクライナに侵攻した。いかなる理由があれ、武力で他国の主権を蹂躪するこの蛮行を強く非難する。また、これに協力したベラルーシも、同様に強く非難されるべきである。

さらにプーチン大統領は、核兵器の使用も示唆した。許しがたい言動である。

爆撃を逃れ、地下に避難した子どもの声を我々は聞いた。「死にたくない。戦争が早く終わって欲しい」と。

一方で、この武力行使を非難し、戦争に反対する声が全世界に広がっている。ロシアでも、強権的な弾圧にもかかわらず、多くの人々が勇気ある声をあげている。我々は、これら勇気ある人々に心から連帯をする。

我々は、被爆国の市民として、生命を慈しむ仏教徒として、世の安穩を願う念仏者として、この武力侵攻を非難し、自己正当化をくりかえす権力者の愚かさを批判し、歴史をかえりみつつ、この戦争の一刻も早い終結を願う。

仏暦 二五六五（二〇二二）年 三月四日

浄土真宗本願寺派 宗会

真宗大谷派

ロシア連邦のウクライナ侵攻に関する声明

宗派声明（英語版・ポルトガル語版あり）

私たち真宗大谷派は、このたびのロシア連邦のウクライナに対する侵攻をはじめとして、あらゆる武力行使に対して反対の意を表明します。

また現在、恐怖と悲しみの中にいる多くの人々に平和が取り戻されることを強く望みます。

私たちは、先の大戦において国家体制に追従し、戦争に積極的に協力して、多くの人々を死地に送り出した歴史をもっています。その過ちを深く慙愧する教団として、1995年の『不戦決議』において、「すべての戦闘行為の否定」とともに、「民族・言語・文化・宗教の相違を越えて、戦争を許さない、豊かで平和な国際社会の建設にむけて、すべての人々と歩みをともにする」ことを誓いました。

このたびの国家間の問題のみならず、世界にはミャンマーをはじめとした、今なお武力による衝突や弾圧の続く国や地域があります。あらためて、すべての武力行使に対して反対の意を表するとともに、一日も早く安穩なる日々が訪れることを願います。

2022年3月1日

真宗大谷派（東本願寺）宗務総長 木越 渉

日蓮宗

ロシア連邦によるウクライナ領域内への侵攻に対する声明文

我々、日本仏教教団である日蓮宗は、此の度のロシア連邦によるウクライナ領域内への侵攻を強く非難致します。既に多数の死者が出ているとの報道を受け、誠に憂慮に堪えず、より深刻な事態を招く恐れを案じております。如何なる政治的理由があろうとも、武力的解決は容認されるものではありません。

我々は教主釈尊の説かれた法華經の教え、そして宗祖日蓮聖人の教えを基に『いのちに合掌』の精神を提唱し、「世界立正平和運動」を展開しております。あらゆる戦争行為に反対する意思を示し、平和的対話によって此の度の侵攻が即時終結されることを強く要請すると共に、世界の恒久平和を祈るものであります。

南無妙法蓮華經
令和4年2月25日
日蓮宗宗務総長
田中 恵紳

曹洞宗

宗務総長談話（ロシア連邦のウクライナ侵攻について）

ロシア連邦がウクライナに対する「全面的な侵攻」に踏み切りました。軍事施設を標的とするとしながら、首都キエフや東部ハリコフなどの戦闘において、民間人も含めた多くの人々の命が奪われたという報道もあります。

まずは、この惨禍によって命を落とされたすべての方がたへ、深く哀悼の誠を奉げ、大切な家族や友人を失った方、負傷された皆様に、衷心よりお見舞い申し上げます。

すべての生きとし生けるものにとって、命は等しく尊く、かけがえのないものであります。国の威厳や国益、主義主張など、いかなる理由によっても「殺してもよい命」や「殺されてもかまわない命」は存在しません。また、誰一人として平穏な生活が奪われ、家や財産を失い、居住する場所を追われることも許容されません。

曹洞宗は「自も他も傷つけない」という立場を貫き、戦争の遂行や暴力・破壊への誘因に結びつく思想や社会行動に同意しないという「非戦」の立場を堅持します。そして、過去に体験した戦争の悲惨さを繰り返さないための智慧と、いのちの尊さを自覚しあう慈悲によって、世界平和の実現が叶うと信じています。

その根本には、お釈迦さまのみ教えと、道元禅師、瑩山禅師のお示しを依りどころとして、争いを治めることができる寛容に満ちた社会を築くべく、まごころをもって努力することをお誓いするという精神があります。

仏教徒である私たちが、まず、人々の安寧のためになすべきことは、戦争の惨禍に巻き込まれ、混乱に陥られ、平穏な生活を奪われた人びとのあらゆる痛みと苦悩に寄り添うことであります。さらに、一人ひとりが当事者として考え、行動する必要があります。

私たちは、世界中の誰しもが安らかに生きられる世界の実現を目指し、「竿頭の先に未来をひらく」ための実践を、不断に続けてまいります。

曹洞宗宗務庁
宗務総長 鬼生田俊英
2022.03.02 企画調整室

浄土宗

ロシアによるウクライナ侵攻に関する声明

このたびロシアが世界の国々の信頼を裏切り、ウクライナ侵攻がなされたことは誠に残念であり、憂慮に堪えません。いかなる状況であれ、武力の行使には反対します。

私たち浄土宗は、法然上人が説かれた「愚者の自覚」の立場から、煩悩にとらわれた人間の哀しみをみつめ、すべての「いのち」の大切さに想いを馳せ、世界の人々が共に手を取り合って平和を実現してゆくことを強く望みます。

現在の混沌とした世界情勢の中で、恐怖、不安、悲しみ、怒りという「苦」の真っ只中におられるあらゆる人々に一刻も早い安寧が訪れ、ウクライナの美しい国土に穏やかな日々が戻ることを心から念願しています。

合 掌
令和4年3月2日
浄土宗宗務総長
川 中 光 教

世界平和を希求する浄土宗宗議会声明

このたびのロシアによるウクライナへの侵攻によって、多くの死傷者が出ている深刻な事態に対し、深い憂慮を表明します。いかなる理由があろうとも武力を用いることは許されません。

浄土宗は、宗祖法然上人の念仏の心を世界に広め、すべての人々が互いに認め合い尊敬し合う「共生（ともいき）」社会の実現を目指しています。これこそ平和に結びつくものと強く信じます。

令和4年3月2日
浄土宗宗議会

天台宗

令和4年3月10日
天台宗宗議会

「ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に対する決議文」

1987年にアッシジの精神を受けて始められた比叡山宗教サミット「世界宗教者平和の祈りの集い」から今年で35周年を迎えるにあたり、2022年2月24日から続けられているロシア連邦によるウクライナへの軍事侵攻を、我々天台宗宗徒は強く非難します。

この度のロシアによる行動は、国際社会の平和と秩序を乱す国際法に違反する行為であります。いかなる理由であれ武器を用いた非人道的な暴力は許されません。

天台宗宗議会は、自利の執着を速やかに放棄し、徹底した対話による平和的解決をロシア政府に強く求めます。

【ロシア連邦のウクライナ侵攻に対する抗議文】

三井寺は、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に断固抗議します。
ロシアは、ウクライナの平和と両国の人々の生命を脅かす戦闘を即時停止し、
速やかにウクライナから撤退することを強く求めます。

臨濟宗 妙心寺派

ウクライナ情勢に関する談話

この度のロシア軍のウクライナへの侵攻に対し、私たちは強い驚きと共に深い悲しみの念を禁じえません。
問題解決のために武力による戦争を行うことは、言うまでもなく仏教の智慧と慈悲心に背きますし、「怨を以って怨に報いれば、怨終ついに除かず」と言われるように、その勝敗のいかんにかかわらず、更に対立を煽り、お互いの憎しみを増やすだけで、根本的な解決を望むべくもありません。

すでに多くの死傷者が出ているとの報道もなされており、その苦しみと悲しみは、侵攻を受けているウクライナ国民だけでなく、攻撃しているロシア国民にも共通のはずです。

私たちは仏教者として、この非人道的な侵略行為に一刻も早く終止符が打たれ、和平が実現することを心より祈っております。

令和4年3月1日

臨濟宗妙心寺派

宗務総長 野口 善敬

宗議会議長 小松 全秀

宗務所長会会長 志佐 了拙

法華宗 真門流

《平和への祈り》

私たち法華宗真門流は、世界の恒久平和を願い、法華經の信仰のもと幸福で平和な世界を築くことを目指しています。この度のロシア連邦によるウクライナ領域への侵攻行為により多くの尊い命が失われ憂慮に堪えない現実を目の当たりにしています。いかなる理由があろうとも、武力の行使を決して容認できるものではありません。犠牲になられたすべての方々へ心から哀悼の意を捧げ、苦境にある人々の無事をお祈りいたします。一刻も早い事態の収束と平和的な解決を切に願い、一日も早く世界に平穏な日々が戻りますことを心よりお祈り申し上げます。

法華宗真門流 宗務庁

真言宗 智山派 智積院

ウクライナ情勢に関する声明

2022年2月24日、ロシア軍がウクライナに侵攻したことが報道されました。

国際社会の信頼を裏切り、武力を行使したことは誠に残念でなりません。いかなる状況であれ、暴力行為には反対の意を表明します。

私たち真言宗智山派は大日如来を始めとする曼荼羅諸尊をご本尊としております。叡智そのものであり、根源の光そのものである大日如来は、太陽の光のようにあらゆる時代、場所にさまざまな姿で現われて、すべての生き物を救うために説法をしています。その教えを基に、生きとし生けるもの全てが平穏な暮らしを取り戻せるよう強く望みます。

この非人道的な行為に一刻も早く終止符が打たれ、不安、苦しみにある全ての人々の安寧を衷心よりご祈念いたします。

令和4年3月5日
真言宗智山派宗務総長
芙蓉良英

本門佛立宗

ロシアのウクライナ侵攻に対する声明文

現在、ロシアが行っているウクライナ侵攻に対し、本門佛立宗として強く抗議の意を表明します。

戦争とは、人類が欲望の極限で起こす破壊行為であり、為政者がお互いに自身の主張のみを相手に押し付けると同時に、一般市民を犠牲にする愚かな行為です。

まして今回のような一方的な侵攻は、国際社会におけるルールをも無視するものであり、到底容認できるものではありません。

本門佛立宗は、「今此三界 皆是我有 其中衆生 悉是吾子」という仏の大慈悲のもと、お互いに相手をいたわり、相手を尊重しつつも共に成仏の道を歩むために、み仏の教えを弘め、菩薩行を実践する宗派です。従って、此の度のような人心を踏みにじる行為は、仏教者として看過する訳にはまいりません。

我欲を抑え、一日も早く両国が共存できる道が開かれることを祈念しつつ、ここに抗議の意を表明いたします。

合 掌

令和4年3月4日
本門佛立宗 宗務総長
新井 日現

顕本法華宗

ロシア軍ウクライナ侵攻に対する宗務総長の声明

この度のロシア軍によるウクライナ領域内への武力侵攻のみならず、顕本法華宗は如何なる戦争行為に対しても強く非難いたします。

不幸にもお亡くなりになられた人々のご冥福をお祈りすると共に、現在も恐怖や悲しみの中におられる方々が一刻も早く平和を取り戻し、一日でも早く復興されることを願ひご祈念いたします。

今もなお、世界中で起こっている紛争や武力衝突に対しても異を唱え、少しでも早く困難な状況にある人々に安寧な日々が取り戻され、世界平和が実現されることを願ひます。 南無妙法蓮華經

令和4年3月3日

顕本法華宗宗務総長 河野時巧

龍谷大学

ロシアによるウクライナ侵攻にかかる声明 (英語版あり)

さる2月24日に勃発したロシア軍による全面的なウクライナ侵攻は、明白に国際法違反であり、私たちはこれを強く非難し、速やかな軍事行動の停止とロシア軍の撤収を要求します。現在、ロシアの一方的な攻撃に対してウクライナが徹底抗戦の構えを見せており、事態はますます深刻の度を増しています。

龍谷大学はウクライナ共和国が1991年8月24日にソビエト連邦からの独立を宣言したわずか4日後の8月28日にキエフ大学と学生交換協定を締結し、本日に至るまで多くの学生の派遣・受入れを行ってきました。このことから、ウクライナ全土の人々が直面している戦争の現実を到底看過することはできません。一瞬にして日常が破壊され、家族を失い、戦火に怯えつつ暮らすことを余儀なくされている人々の苦境は計り知れません。さらに、私たちの大学はロシアのモスクワ大学アジア・アフリカ学院とも1997年から学生交換協定を締結しています。全世界を敵に回して孤立化するロシア国内の人々の苦境にも思いをいたし、同国で抗議の声を上げている勇気ある人々に連帯の意を表します。私たちはウクライナからの留学生とロシアからの留学生同士が共に本学で楽しく学ぶ姿をこれまで多く目にしており、とても胸を痛めています。

すでに本学有志が発出した声明文にもあるとおり、龍谷大学は建学の精神である「浄土真宗の精神」に基づく人間育成を実現する心として5項目を示し、その中で「すべてのいのちを大切にする『平等』の心」と「人類の対話と共存を願う『平和』の心」を掲げています。今まさにこれらの「心」による平和の実現を求めて、全世界が立ちあがるべきであると訴えるとともに、当事国のみならず、全世界の為政者たちに対して、現下の危機を一刻も早く収束させるために最大限の外交的努力に取り組むよう強く求めます。

2022 (令和4) 年2月28日

龍谷大学・龍谷大学短期大学部 学長 入澤 崇
龍谷大学グローバル教育推進センター長 久松 英二

ロシアのウクライナ侵攻に抗議し、即時撤退を求める声明

2022年3月2日

同朋大学学長 松田 正久

ロシアのプーチン大統領は、2月24日ロシア軍をウクライナに侵攻させました。これは、「国際の平和及び安全を維持すること」を目的とした国連憲章の精神を踏みにじるものであり、決して許されることはありません。プーチン大統領は、核兵器使用をほのめかし威嚇するなど、軍事行動を一層強化・継続しています。今世紀最大の平和の危機であると言って過言ではありません。

同朋大学の建学の精神は、「同朋和敬＝共なるいのちを生きる」です。すべての人が平和な中で生きていくことが願われています。仏教は、経典に「兵戈無用」（『仏説大無量寿経』）と示し、平和的手段こそがあらゆる事態を解決する唯一の方法であると述べています。ブッダは説かれました、「生きとし生けるものは暴力に怯え 生きとし生けるものは死を恐れる。自分自身もそうであることを自覚し、殺してはならず、殺させてはならない」（『ダンマ・パダ』）。ロシア軍の攻撃の中、地下鉄駅舎などに肩を寄せ合い避難しているウクライナの市民の姿、罪なき子どもたちを含めた多くの人と言われなき暴力に曝されている姿を目にするとき、わたしはブッダがまさに今のわたしたちに語りかけていることを感じます。殺させてなりません。

日本に立ち返れば、第二次世界大戦での我が国の侵略行為を反省し、戦争を二度と繰り返してはならないと誓い、日本国憲法を定めました。わたしたちは、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認」（憲法前文）し、「国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄」（第九条）し、平和的手段こそが問題解決の唯一の道であると宣言するものです。

大学は、学術研究を通して、世界の平和の実現と学生諸君の人格の形成・人間の尊厳の確立を目的とする高等教育機関であり、この目的からも、武力による他国の侵略などは到底許されるものではないと考えます。

ロシア国内においても弾圧・抑圧に屈することなく反戦を訴える市民がいて、その中には多くの大学人・科学者・研究者たちがいると確信します。わたしは一人の大学人として、平和を求める全世界の市民・大学人と連帯し、プーチン大統領とロシア政府に対して、即刻ウクライナから撤退することを、強く求めます。

あわせて、学生、教職員の皆さんが、今起きている事態をどう考えるのか、自らの問題として、考え、話し合ってくださいことを期待し、この学長声明を出すことにしました。一緒に考えていきましょう。

立正大学

ロシアのウクライナへの軍事侵攻について

2022/03/09

2022年2月24日、ロシア政府はウクライナへの一方的な軍事侵攻を開始しました。この軍事侵攻によって勃発した戦闘では、多くの市民が命を落としています。これは、第二次世界大戦後、厳しい冷戦下においても全面的な世界を巻き込む戦争を回避してきた人類への挑戦であり、到底許容できるものではありません。

「真実・正義・和平」を建学の精神とする立正大学は、この軍事侵攻に強い抗議の意思を表明するとともに、世界が一日も早く平和で安全な生活を取り戻すことができるように、大学の本分である教育研究活動を通じて貢献してまいります。

立正大学長
吉川洋

今般の、ロシア連邦によるウクライナへの軍事侵攻では、民間人にまで被害が及んでおり、多くの尊い命が失われているという報道がなされています。

はじめに、この度の戦禍により命を落とされた全ての方々に深く哀悼の意を捧げるとともに、衷心よりお見舞い申し上げます。

「仏教の教えと禅の精神」を建学の理念に掲げ、「智慧（物事を見極める判断力）」と「慈悲（他者への慈しみといたわり）」を一身に具える人材の養成を目的に教育・研究活動を行っている本学は、すべての生きとし生けるものにとって、命は等しく尊く、かけがえないものとして考えています。その尊い命を奪い合う行為に憤りを覚えるとともに一刻も早く平和がもたらされることを願ってやみません。

現在、本学は「多様な個性を尊重しながら共創を目指すダイバーシティの考え方」の育成を目指して教育研究を進めております。それは、あらゆる存在（他己）の尊厳と多様性を認め、「見返りを求めない」という「利他の心」の確立を意味します。「武力行使」は、如何なる理由があっても容認することはできません。真の平和の実現に向け、これからも不断の教育・研究を遂行して参ります。

駒沢大学学長 各務 洋子

京都女子大学

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に対する声明

2022年2月24日に始められたロシア軍によるウクライナ侵攻は、人類がこれまでの歴史のなかで、多くの犠牲のうえに築いてきた国際的な合意に反するものであり、決して許されるものではありません。

親鸞聖人が顯かにされた仏教精神を建学の精神とする京都女子大学は、これまでも「いのちの大切さ」を教育の柱としてきました。

今回の紛争において、女性や子供たちをふくむ、多くの民間人のいのちが危機にさらされていることを深く憂慮します。

平和を求めるウクライナとロシアの人びととともに、ロシア軍によるウクライナへの侵攻の即刻停止と、紛争の平和的な解決を強く求めます。

2022年3月8日
京都女子大学
学長 竹安 栄子

念仏者九条の会

今、戦争で 殺し・殺される “悲しみ”を思い
「ロシアはウクライナでの戦争を今すぐ止めろ」と訴えます

2022.3.4

念仏者九条の会、非戦平和を願う真宗門徒の会
合同全国集会参加者一同

2022年2月24日、ロシアによるウクライナへの侵略戦争が開始されました。今この戦争によって毎日ウクライナ、ロシア両軍の兵士、そしてウクライナ市民の人たちのいのちが傷つけられ奪われている状況を見るに付け、大きな悲しみを覚えずにはおれません。

私たちは仏教徒として、真宗念仏者として、ロシアによるウクライナへの侵略戦争に断固反対し、一刻も早く話し合いの場に解決の手段を移すよう強く望みます。

今この瞬間にも戦争によって、親を失い・子を失う人が毎日が生まれています。そして、命じられるままに銃の引き金を引き、他者の命を奪わざるを得ない何十万の兵士がいます。いのちを奪われることはもちろん悲劇ですが、いのちを奪う行為をさせられる兵士にとっても、それは大きな悲劇です。

今まさに、私たち一人一人が己が身に引き当ててお釈迦さまの「真理の言葉」に耳を傾けていくときです。

「すべての者は暴力におびえる。すべての生きものにとって生命は愛しい。

己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ」

武力という暴力の行使によっては憎しみが増しこそすれ、真の平和はもたらされません。「殺し・殺させられる」ことの悲痛を胸に話し合いが行われることが、戦争を止める唯一の手段です。二十世紀、二つの世界大戦を起してしまった私たち人類は、今まさにこの世に地獄を作り出した言語に絶する経験を振り返るべき時だと思えます。

今、日本国内でもこのウクライナでの戦争に便乗して「軍備力強化」どころか、広島・長崎原爆の惨禍を経験したこの日本に、「非核三原則」を破棄して「核兵器の共同保有」をさせようとまで言う政治家が現われています。彼らの声は「平和憲法(前文・9条)」を変えていこうという声でもあります。日本の国の平和憲法は日本の国の憲法ではありますが、二つの世界大戦の悲劇から生み出された人類の叡智の結晶でもあります。再び戦前の「力対力」に今世界が逆戻りするなら、今度は本当に私たち人類の破滅へ突き進むことになることがこの度のウクライナでの戦争でいよいよあきらかになりました。

私たちの本願寺教団は77年前までの日本の侵略戦争に積極的に協力していった痛恨の歴史を持っています。それは77年たった今も背負わなければならない加害を生み出しました。そしてまた戦場で、空襲で、そして原爆等でいのちが奪われていくという取り返しのつかない悲痛な被害をもたらしました。

今同じ思いを、世界の誰にも味わってほしくはありません。

そのためには「ロシアはウクライナでの戦争を今すぐ止めろ」と私たちは訴えます。

以 上